



古高だより

自主自立 敬愛和協 明朗端正 勤勉誠実

鹿児島県立古仁屋高等学校
〒894-1508
鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋 399 番地 1
[TEL]0997-72-0034 [FAX]0997-72-0057
<http://koniya.edu.pref.kagoshima.jp/>

入学式式辞「生徒の皆さんに期待すること(抜粋)」

校長 松ヶ野 健

入学を許可された四十八名の新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんを心から歓迎します。皆さんの教育に対して保護者が負う義務は中学校までで終わり、皆さんは自分の意思で高校へ進学することを決め、この古仁屋高校を選び、合格を勝ち取り、そして入学しました。これは素晴らしい選択だったと思います。

古仁屋高校は、皆さんが保護者の深い愛情を日々受けながら、地元で大きく成長し、地域からの期待にも応えることのできる最もいい高校だと思います。その意味で、皆さんは素晴らしい選択をしたと思うのです。

さて、合格者集会以配布した「入学のしおり」の中で、私は皆さんに二つのことをお願いしました。

一つ目は「稚心を去れ」です。これは、幼稚な心、つまり自己中心的な考え方やわがままな言動・行動を捨てて、何をすべきかすべきでないか正しい判断のもとで行動し、いい意味での大人に近づいていってほしいということです。

もし、これまで稚心があったとすれば、高校入学を機にそれを改め、落ち着いたいい校風、安心して過ごせる学校を、先輩の生徒諸君とともに築き上げていってください。

二つ目をお願いした「大志を抱け」は、その上で、大きな夢や志を抱き、自分はこのよう人間になりたいといった「自己実現」や、このような勉強をして進学や就職をしたいといった「進路実現」のための取組をしてほしいということです。学校内だけでなく自宅や地域においても、価値のあることにはほとんどチャレンジしてください。

高い志を実現するためには授業だけでは不十分で、自宅学習と読書の習慣のさらなる充実が必要です。幅広い教養や学力の向上に努めてほしいと思います。部活動や生徒会活動等においても高い志を持ってほしいと思います。心身や技術を鍛え、各種大会やコンクール等で少しでも上位への進出や入賞を目指してほしいし、ボランティア活動等を通じた地域への貢献にも期待します。そういった文武両道の取組が、古仁屋高校が活性化し、地域からもっと愛される学校になることにも繋がると思います。

ところで、皆さんは本校校歌の作詞者を知っていますか。戦後の奄美の日本復帰運動で、断食等の無暴力主義により日本復帰を果たし、日本のガンジーとも呼ばれた人物、泉芳朗です。彼は徳之島の出身で、古仁屋小学校教員や名瀬市長等を歴任しています。彼の没後、「泉芳朗詩集」が刊行されていますが、その中に、ロシア文学者で、同じく奄美の日本復帰運動に尽力した加計呂麻・芝の出身である昇曙夢が次のように書いています。

「南国より詩人出でよ」。これは私の長い間の念願であった。この念願は不思議にも久しく達せられなかった。本来から言えば、我が奄美大島は、その環境から言っても、住民の素質から言っても、とうに幾多の詩人を出していなければならない土地である。

しかるに最近、明星の如く、詩壇の地平線上に輝き出した一人の若い南国詩人がいる。それはこの詩集の著者、泉芳朗君である。

古仁屋高校の校歌はこのような詩人、泉芳朗が作詞したものなのです。大変誇らしく思うとともに、昇曙夢の念願であったという「南国より詩人出でよ」という言葉が、何故か心に強く残ります。

皆さんはどう思いますか。恐縮ながら、先ほど述べた「大志を抱け」に通じる部分があるように私には思えるのです。これまでも瀬戸内出身で全国で活躍されている先輩諸氏は数多くいらっしゃいますが、大志を抱く皆さんの世代の中から、輝く人材が将来出てきてほしいと願っています。期待しています。

第69回入学式



校長を前に宣誓文を読みあげる
田中優香さん(古仁屋中)



歓迎の言葉を述べる脇田七海さん(3年生)



在校生と初めて対面する新入生(入学式後の対面式)



新入生を代表して挨拶をする上原龍聖くん(阿室中)

平成28年度 転入職員の紹介

氏名	前任校等
石神 正憲 (教頭)	県総合教育センター
米倉 秀和 (地歴公民)	鹿屋高等学校
山田 隼 (地歴公民)	蒲生高等学校
太田 亮 (数学)	吹上高等学校
鳩野 由佳 (音楽)	錦江湾高等学校
福永 さやか (英語)	奄美高等学校
奥 麻佳 (実習助手)	錦江湾高等学校
花田 海星 (校務補助員)	新規採用



よろしくお願いします。



2列目左より 花田, 山田, 太田, 米倉
1列目左より 福永, 石神, 鳩野, 奥